

第5回企画展 江戸川区の誇り シリーズ第1弾

「金魚百景」

華のお江戸の伝統を今に引き継ぐ江戸川区の金魚



江戸川区の金魚を今に引き継ぐ

入場無料

2009

6.26 fri



9.13 sun

しのざき
文化
文化プラザ

しのざき文化プラザ 企画展示ギャラリー

〒113-0041 江戸区東船場町 7-20-19 3F TEL.03-3676-9271 (P)

営業時間：開館時間：10:00～18:00

休館時間：9:00～21:30 (年末年始休館：12/29～1/3)

www.shinogaki-culture-plaza.jp

- 金魚のふるさと江戸川区
- ここが凄い！江戸川金魚の秘密
- 泳ぐ金魚のミニ水族館
- 浮世絵にみる金魚ブーム
- 伝統工芸・アートする金魚たち
- 今録る！複製版・金魚玉
- 文化財DVD「江戸川区と金魚」
- 折って並べて金魚と遊ぼう！
- 金魚をお家で飼ってみよう！
- 金魚と会える！夏のイベント紹介

金魚すくいに挑戦しよう！
3Fギャラリーで
スタンプを無料でね！

8/2日

8/14日

8/23日

11:00～18:00
観覧 無料 100名まで



金魚すくい
スタンプラリー

協力：江戸川区教育委員会、大田区、台東区、台東区

金魚売り

暑い夏の昼下がり、桶の水音とともに
どこからか涼しげな呼び声が聞こえてきます。

「きんぎょ～え、きんぎょ～お～」。

「振り売り」とも呼ばれた金魚売りは、

17世紀半ばにはすでに登場していたとか。

金魚玉を揺らし金魚を売り歩くようになった後も、

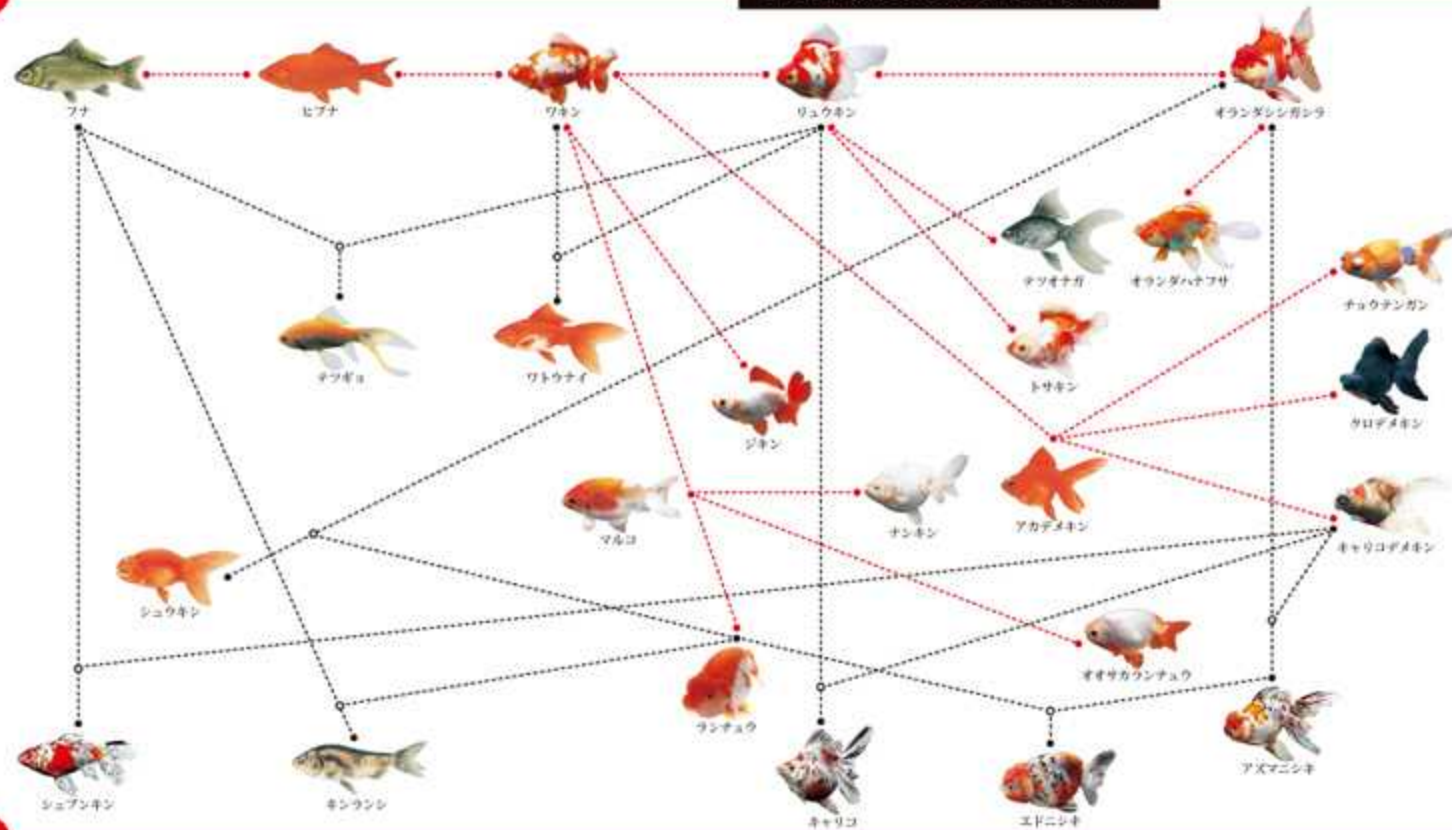
その姿は昭和の戦前まで夏の風物詩でした。



金魚の系統

きんぎよの
なかま

金魚改良の歴史を見る



中国から来た金魚



アメリカから来た金魚



イギリスから来た金魚



昭和以降に命名された金魚



突然変異によるもの

交雑によるもの

誕生金魚

あなたの
金魚は？ どの子かな？

「金魚」は生きた芸術作品です

1 January



チャキン

タンチュウ

2 February



チョウビ

デメキン

3 March



サクラニシキ

エドニシキ

4 April



キャリコ

リュウキン

5 May



オオサカランチュウ

ランチュウ

6 June



ハマニシキ

パールスケール

7 July



ワキン

ハナブサ

8 August



コメット

シュブンキン

9 September



オランダシガシラ

アズマニシキ

10 October



ジキン

トサキン

11 November



ナンキン

セイブンギョ

12 December



スイホウワン

チョウテンギン

	Name	Symbol	Image
1月	タンチュウ・チャキン	恋愛・純白・希望	日の出
2月	デメキン・チョウビ	誠実・高貴・心の平和	空白さ
3月	サクラニシキ・エドニシキ	聡明・純白・幸福	緑の花びら
4月	リュウキン・キャリコ	威厳・高貴・貴	金魚の代表

	Name	Symbol	Image
5月	ランチュウ・オオサカランチュウ	真実・恋愛・勝利	金魚の王様
6月	パールスケール・ハマニシキ	純白・高貴・知性	真珠の輝き
7月	ワキン・ハナブサ	恋愛・高貴・仁愛	金魚の王
8月	コメット・シュブンキン	知恵・勝利・利望	夏の金魚

	Name	Symbol	Image
9月	アズマニシキ・オランダシガシラ	誠実・恋愛・純白	カラフルさ
10月	トサキン・ジキン	安楽・高貴・恋愛	華麗さ
11月	セイブンギョ・ナンキン	幸福・高貴・健康	秋の風
12月	チョウテンギン・スイホウワン	真実・恋愛・勝利	静けさ

江戸川区無形文化財

篠原儀治氏の手により

現代に蘇った！

金魚玉

「かつて番玉と呼ばれた金魚玉は、

発祥は江戸時代だけど戦前まで盛んに作ってましたね。

クルマを引く金魚屋が金魚といっしょにウチの風鈴も売ってました。

ついでに金魚を入れて持ち帰る番玉もたくさん仕入れてくれたよ。

風鈴づくりが終わる7月半ばから8月にかけて、

番玉はよく売れたもんだ。久し振りに作ったけど、

ビニール袋よりやっぱり風情があって良いね」。

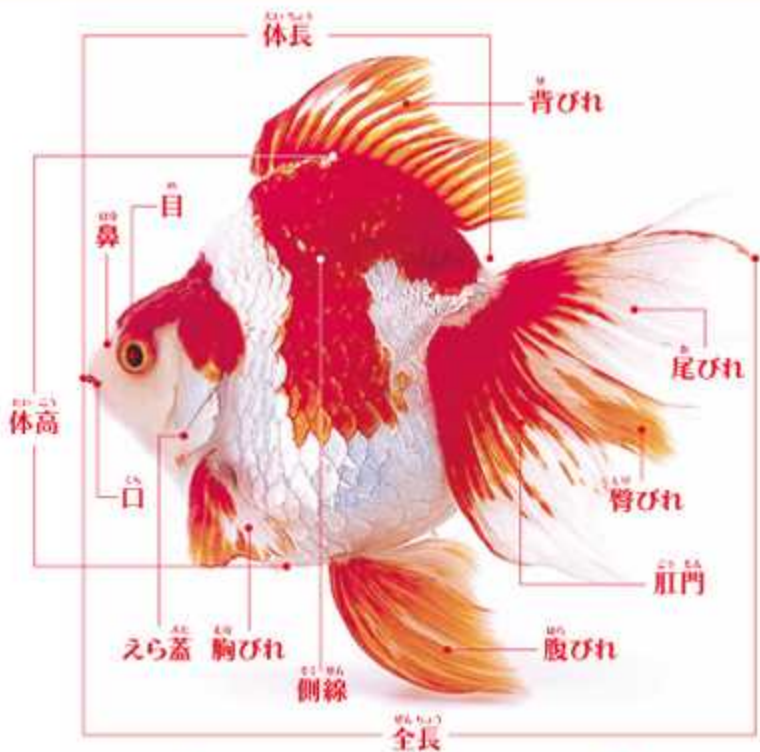


江戸風鈴

篠原風鈴本舗

篠原風鈴本舗 篠原儀治さん

リュウキンのカラダと各部の名称



江戸川
リュウキンは
「体高」が
立派です！

泳ぐ姿が
美しい！

筋肉質で
丈夫です！

江戸川金魚の ここがスゴイ！

300年以上も前から江戸で行われてきた金魚の養殖。その歴史を受け継ぐ江戸川区の養殖業者は今でも、より優良な金魚を作り出そうと、金魚の伝承を途切れさせまいと頑張っています。区内を代表する金魚の賢人から、江戸川金魚のこれまでとこれからをお聞きました。

戦時中は
鯉の池に

さかのぼること40数年、第二次世界大戦時の江戸川区の金魚屋では、鯉が飼われていました。食料確保のため食用の鯉が生産されていたのです。

金魚屋の
子どもは
働き者

大人たちが朝早くから夜遅くまで、金魚の養殖に懸命だった時代。その子どもたちも小さい頃から家事を手伝っていました。池に入って金魚を飼ったり、水やりとなるてびんつを飼ったり、生活の中で、生き物の命の大切さも自然に覚えていきました。

江戸川区に
金魚池？

昭和の中頃までは金魚養殖業者が20数軒もあった江戸川区では、一帯に、おいて、宇田川など、区内のあちこちに金魚池が設けられました。

学校の
プールに
金魚？！

区内の小・中学校のプールではその昔、何から金魚が泳いでいたとか、プール開きの前には子どもたちがその金魚をプレゼントしたということがあります。

三大産地の
主要品種は？

各地の養魚場ではいろんな品種を生産していますが、産地により傾向があります。大和郡内ではフキンが主、群馬は金魚全般を幅広く生産、それに対し東京は元々とした金魚の代表選手、リュウキンを中心に生産していました。

名金魚の
誕生秘話

1947（昭和22）年、カスリーン台風により青森県が決壊。漁業な産卵リュウキン300尾を飼育していた堀口養魚場の金魚池も洪水により金魚が逃げ出し、残って堀口英明さんは金魚を救いました。しかし、子に残ったのはわずか30尾。その産卵リュウキンと産卵の長年未達吉氏から譲り受けたリュウキンを元に作られたのが江戸川リュウキンでした。

江戸川
リュウキンの
魅力

江戸川リュウキンとは、和名刺繍の産卵リュウキンの中でも、身体全体がまぶさく、泳ぐ姿に気品があり、尤も江戸川産の金魚です。堀口英明氏の代、堀口英次さんが完成させた金魚です。

江戸川金魚は
健康優良児

東京の金魚養殖では、金魚池を飼育する池が少なく、金魚も、飼育しきれないという問題が起きていました。でも、江戸川産金魚は、元々健康優良児で、飼育しやすいため、全国的に人気があります。

飼育は
スパルタ式で

技術は
埼玉そして全国へ

東京の金魚の生産量は減りましたが、その伝承の養殖技術は埼玉、茨城、千葉、新潟、長野、大和郡山、大和などでも受け継がれています。研究熱心だった堀口英明さんのもとには、生前から全国の生産者が訪れ、技術を盗っていました。そうした伝承を受け継ぐ江戸川リュウキンの子孫もまた、全国で元気に泳いでいます。

中島敏夫さん

「日本でもトップの金魚を作ろうという人の苦労は、おぼろげに知れたいものがあります。私にはできません。でも東京の金魚の伝承はこれからは失いたくない。希望の持てる海苔にしたい。私も取組んでいます。夢があるから、仕事は面白いんですよ。」

橋川博行さん

「江戸川リュウキンを作ったのは堀口英明さんです。堀口さんがいなくなると、私も困ります。でも、私も金魚を飼育しています。私も金魚を飼育しています。私も金魚を飼育しています。」

堀口英明さん

「リュウキンも、アズマニシキも、大きく育ったらどれかを飼育したい。でも、私にはできません。でも、私も金魚を飼育しています。私も金魚を飼育しています。私も金魚を飼育しています。」

江戸川金魚の
あつぱれ受賞歴

近年の46回の品評会のうち、江戸川区の堀口養魚場と橘川養魚場の優勝回数は、なんと26回に及びます。江戸川区生まれのリユウキンがいかに優秀かを示してい



【全日本金魚品評会 園林水産大授賞（総合優勝）江戸川区の受賞歴】

演題名	演者名	所属	演題名	演者名	所属
1995年10月24日 第1回	山本浩一	東京大学	1996年10月24日 第2回	山本浩一	東京大学
1996年10月24日 第2回	山本浩一	東京大学	1997年10月24日 第3回	山本浩一	東京大学
1997年10月24日 第3回	山本浩一	東京大学	1998年10月24日 第4回	山本浩一	東京大学
1998年10月24日 第4回	山本浩一	東京大学	1999年10月24日 第5回	山本浩一	東京大学
1999年10月24日 第5回	山本浩一	東京大学	2000年10月24日 第6回	山本浩一	東京大学
2000年10月24日 第6回	山本浩一	東京大学	2001年10月24日 第7回	山本浩一	東京大学
2001年10月24日 第7回	山本浩一	東京大学	2002年10月24日 第8回	山本浩一	東京大学
2002年10月24日 第8回	山本浩一	東京大学	2003年10月24日 第9回	山本浩一	東京大学
2003年10月24日 第9回	山本浩一	東京大学	2004年10月24日 第10回	山本浩一	東京大学
2004年10月24日 第10回	山本浩一	東京大学	2005年10月24日 第11回	山本浩一	東京大学
2005年10月24日 第11回	山本浩一	東京大学	2006年10月24日 第12回	山本浩一	東京大学
2006年10月24日 第12回	山本浩一	東京大学	2007年10月24日 第13回	山本浩一	東京大学
2007年10月24日 第13回	山本浩一	東京大学	2008年10月24日 第14回	山本浩一	東京大学
2008年10月24日 第14回	山本浩一	東京大学	2009年10月24日 第15回	山本浩一	東京大学



第一類國際產品 評審會審查成績

[illegible]

竹園路、竹園路、竹園路、竹園路

りんびょうかい、しんぎせいのせき、ぼんぎふりょう

第一回ランチュウ品評会審査成績番付表 1909(明治42)年

明治初頭から各種品評会が頻繁に開かれました。この番付表はランチュウの品評会ですが、「花吹雪」や「六歌仙」、「世界一」など出品金魚に立派な名前をつけています。金魚愛好家たちの熱狂ぶりが目に見えるようです。

江戸川区

金魚の歩み

1897 (明治30) 年

東京金魚商組合が設立される(60の生産者及び卸)

1923 (大正12) 年

明治末頃より本所や深川から金魚養殖が水源豊富な江戸川区に移転
関東大震災以降、江戸川区の金魚養殖が盛んになる

1940 (昭和15) 年

最盛期に23軒の養殖業者がいた江戸川区では
金魚5000万尾を生産し海外に輸出

1945 (昭和20) 年

大戦により衰退した金魚養殖が復活し、
江戸川区は全国有数の金魚産地になる

1947 (昭和22) 年

カスリーン台風発生、東京都内の金魚池は
数軒を除きほぼ壊滅

1949 (昭和24) 年

東京都淡水魚養殖池業協同組合が設立

1950 (昭和25) 年

江戸川区船堀に現在の組合セリ市場が完成する

1954 (昭和29) 年

東京の金魚生産業者31軒中、3分の2が江戸川区に

1956 (昭和31) 年

ポリエチレン袋に酸素を封入する輸送方法が
本格的に使用される

1957 (昭和32) 年

金魚まつりの前身となる
「江戸川区特産金魚品評会」が始まる

1965 (昭和40) 年

第1回全日本金魚品評会で、
堀口養魚場の江戸川リュウキンが農林大臣賞受賞

1969 (昭和44) 年

地下鉄東西線が開通、
区内の養殖業者が千葉や埼玉に移転

1972 (昭和47) 年

江戸川区の養殖業者が17軒に
(1500万尾生産)

1979 (昭和54) 年

江戸川区の養殖業者が6軒に

1990 (平成2) 年

日本観賞魚振興会(本部江戸川区)が
3月3日を金魚の日と制定

現在

江戸川区の養殖業者は養魚池を移転した1軒を
含む計3軒となりましたが、その品質はいまでも
日本のトップクラスを誇っています。また、毎年
春に江戸川区で開催されている日本観賞魚フェ
アには、全国から通りすぐりの金魚が集まり、全
国の金魚ファンを楽しませています。

フェア会場の様子



江戸川金魚まつり



江戸川リュウキン



セリ場購入作業



養魚の様子

金魚の旅立ち

風流
成長した金魚は体型、尾型、色、模様、泳ぎ方などにより利便度も選別する

池替え
金魚の生活環境を良くするため、水質を調整する池替えをしながら金魚を育てる

出荷
金魚はセリや金魚まつりに出荷され、大勢にしてくれる人の家に旅立つ

春、水草などに育みつけられた稚魚を、水草といっしょに別の池に移す

4〜7月で卵からかえった金魚の赤ちゃんは、5ミリくらいでみんな池いづな色

少し大きくなった金魚の赤ちゃんを、ミジンコ(エサ)のいる養殖池に移す

水を流かした大釜に大釜の鰻などを入れて作った煮エサなどを与える



寿命は?

平均で3〜4年程度です。30年以上生き残った記録もあります。

赤ちゃんは黒い?

生まれたばかりの金魚は、こけろ色のフナと同じように黒い色をしています。

金魚の卵の数は?

毎年春に3〜4回産卵します。1日に産む卵は数千個ほどです。

金魚が来た道



江戸での呼称は?

黄金魚やカラダの金魚で、20世紀初めには呼ばれていました。

中国名は?

金魚・コイ・ヒナなどと呼ばれることが多く、現在は金魚が一般的に呼ばれています。

ご先祖様は?

ツナギの金魚は多く、今でも多く飼育されています。

金魚三大産地

東京都 江戸川区

愛知県・豊田市
約140年前(幕末)、大和郡山の金魚商人が東海道を渡った際、東京の江戸川区で金魚を休ませようと池に放ったのが始まりといわれています。

奈良県・大和郡山
1724(享保9)年、山梨の甲府から種親古里が回轉りして大和郡山に移った時、家臣が金魚を持ち込んだことが、金魚産地のきっかけになりました。

天下太平の世が長く江戸中期、江戸の城下町では金魚が庶民の間でもはやされ、養殖においても江戸は一大産地として発展します。中心部で行われていた養殖は、広い土地があり水質良好な江戸川区へと明治末期より移ってきました。以来、江戸川金魚は今でも日本トップの品質を誇っています。